

(学校運営協議会・報告様式)

令和7年度 第2回 若松小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日時 令和 7年 6月 16日(金) 16:00 ~ 17:30

2 場所 会議室

3 あいさつ(学校長、委員長)

(委員長)・田植えやさつま芋苗植えなど、地域と連携した行事が実施されている。今年度もこのように、地域と学校が連携していけるとよい。

(学校長)・運動会等、教育活動へのご協力に感謝している。

4 協議内容(○委員の発言 ●回答等)

(1)教育委員会より(学校教育課、教育指導課)

(学校教育課長)

就学、進学に係る円滑な接続や、社会を生き抜く力の育成等を目的に、鈴鹿市では、中学校区を基盤にした幼小中一貫した教育を進めている。市内では、数校で、同小学校から中学校への進学の際、異なる中学校に進学するという課題がある。その中の一つが若松小学校であり、教育委員会としては、若松小学校全児童の大木中学校への進学を検討している。

(教育指導課長)

系統的な教育を行うため、「幼小中連携」から「幼小中一貫教育」へ、中学校区単位で取り組めないか、検討している。

○校名の変更はないか ●現時点では考えていない

○千代崎中学校に近い児童について、通学路はどうなるのか、安全面はどうか

○塩浜街道の危険性を考えると、公道の整備が必要である

●長い距離で、4kmほどある。安全面は今後、検討していきたい。

○反対である。遠い学校に通う必要があるのか。幼小中一環としているが、幼稚園は4園にまで減少している。幼を入れる必要があるのか。単に数字上の問題だけに聞こえる。

○千代崎海岸付近の若松小から全く千代崎中に進学しなくなるのはどうか。

○電車通学は検討しているか。●現時点では考えていない。

○進めていくとして、5年後の決定では遅くないのか。5年も検討する必要があるのか。結果を早く出して、進めていく必要はないのか。

○最終的な効果はどうなのか。人数不公平を解消するのが目的か。

○異なる中学校への進学は、新しい友達ができるというメリットが、同じ中学校への進学は、同じ友と学び続けるというメリットがある。何を目的にするか。

●教育の中身を中学校区で一本化していきたい。同小学校すべての児童が同じ中学校への進学することをめざしている。

●現時点では、今後どう進めていくかを検討するために、たくさんの意見をもらいたいと思っている。本日に限らず、今後も意見があればほしい。

○若松自治会長会で説明するにあたっては、愛宕自治会も入っているので、それを踏まえて、説明にきてほしい。愛宕小も異なる中学校へ進学している。

(2) 各種行事のふりかえり

(運動会について)

○表現活動がよかった。今後もプログラムに入れてほしい。

○係活動が慌てず、とてもうまく進められていた。先生と児童との連携もよかった。

○スピーカーの雑音が気になる。直してほしい。レンタルも考えてはどうか。

○徒競走のスタート方法を統一してはどうか。呼名があると保護者はわかりやすい。

(フィールドワークについて)

○登校中のこどもが、フィールドワークのことを、翌日の朝に、他の児童に話しているのを聞いて、うれしかった。

○急に暑くなり、時間を早めてもらい、ボランティアにとってもよかった。

○地域の方が、緊急の際の給水や連絡を快く引き受けてくれて、ありがたかった。

(3) 今後の行事について

(環境整備について)

○クリーンスクールは今年度は10月4日(土)に予定している。詳細は後日。

○遊具のためのペンキ購入等をPTAに協力いただきたいと思っている。

○昨年度、プールの防水シートを敷いていただき、快適である。

(防災について)

○津波避難、引き渡し訓練 11月20日(木)13:45頃予定、千代崎中学校へ避難する予定。

(ラジオ体操について)

○(PTA)人数把握のための集計の負担が大きいので、集計をなしにしてほしい。開催期間と開催場所だけでどうか。子ども会主催なので、PTAが集計するのはどうか。

●(委員長)ラジオ体操の実態を把握するため、集計は必要である。今年度はこのままでいきたい。(ふれあいフェスタ若松について)

○今年度は、大木中学校、千代崎中学校両行が参加。部活地域以降の関係で、部活動として今年度が最後の参加になると思われる。

(学校支援ボランティアについて)

○保護者が何人か応募してくれている。環境ボランティアが少ないので、声をかけていきたい。

(その他)

○保護者、地域の方へのお願い文書を確認し、お気づきの点があれば学校へ連絡してほしい。

4 教育支援課より

・教育委員会から学校運営協議会に直接説明があるのは、それだけ学校運営協議会を重要に思っている。厳しい意見であっても、様々な意見を必要としている。

・教育委員会では、保護者、地域の方々に主訴を理解してもらうため、整理している。

・学校、家庭、地域が融合するため、難しい意見を出し合うのもこの学校運営協議会の場である。

・学校は家庭、地域の力もかりて、学校をよりよくしていきたいと思っている。